

学 園 通 信



No. 259

九里学園高等学校 P T A

2014.7.22 発行



● 特集 「国際交流」

インドからの留学生が来校！

その他 学年行事・ユースフルスクール紹介 等

Welcome to KUNORI GAKUEN

“繋ぐ” 友情 「インドからの留学生」

～ ジェネシスプログラム インド 派遣事業 ～

今年度本校は、外務省主催、国際協力センター（JICE）実施のJENESYS2.0青少年招聘事業に参加し、5月にインド人学生（17歳から30歳）を50名受け入れました。

5月15日（木）に来訪団が米沢に到着し、交流会等をおこなったあと、翌日16日から週末には、本校生徒と教員の家庭に2泊3日のホームステイをしました。7月には、本校から19名の生徒がインドへ研修に行きます。お互いに友好を深め、交流を通してクールジャパンを含めた日本の文化を日本の若者ならではの視点からインド人に紹介し、未来を担う青少年の日印間の相互理解に努め、強い絆を結びたいという目的です。また、このことをきっかけに、本校生徒にも外国語や外国文化に興味・関心を抱き、真の国際感覚を身につけた国際人となってほしいと考えております。



日本人はいつも微笑み、そして賢い人々であると思います。私たちはこのプログラムで多くの事を学びました。そして、日本の生活様式を間近に見ることができました。ホームステイのプログラムはお互いの意見の交換や文化交流をするために素晴らしい機会となりました。とても貴重な体験でした。

インドの留学生から



とてもフレンドリーで私たちに對して本当に親切にしてくれました。あまり歓迎してくれたので驚いたほどです。日本と日本人に敬意を表します。

今回私は初めて来日しました。たくさんの日本人の友人がいますから、来日前に日本の事を良く分かっていって良かったです。しかし、日本滞在中に多くの事に感じました。ホストファミリーは

インドの留学生から



初めての受け入れ

三年三組 下田 彩花

私は、国際交流に興味があり以前から受け入れをしたかったのですが、自宅が福島にあるということではなかなか言いだせませんでした。そこで先生に相談したところ家が遠くても大丈夫だということを受け入れを決意しました。

初めて会った時、緊張して話せなかつたけれどインドの方がとても優しく、たくさん話しかけてくれて緊張もほどけ楽しくコミュニケーションをとることができました。

休日には、百円ショップに行きました。喜んでくれました。

今回の受け入れで、コミュニケーションの大切さを学び、国際への理解を深めたと思います。



家に居ながら国際交流

保護者 下田いずみ

娘から話があった時、何の迷いもなく受け入れました。

我が家には可愛らしい女の子が二人来ました。とても礼儀正しく一人は日本語が上手だったので、コミュニケーションも困る事はありませんでした。恥ずかしがりやの家族も積極的に関わろうという姿もあり、お互いの生活の違いや文化の違いを話しました。

洗濯をして休んでしまったので、勝手に干してしまった事を、気にして謝ったら、インドでは、「お母さんは謝らない」と言われた事や、カッパ寿司の隣のカレー屋さんで食事した事、後悔が沢山ありますが、この交流を通して、家族が一つになれてとても良い経験が出来ました。



交流生との短い時間

二年一組 田井地清流

二日間、インド人と一緒に過ごす事になった。宗教や文化の違いもあり不安だった。しかしインド人は、日本のあらゆる知識・日本語が非常に上手であった。日本への興味・関心を感じられた。僕は日本の自然を紹介した。蔵王だったり米沢巡りなど。インド人はこれらを見て、とても嬉しそうだった。僕たちとも仲が深まり、いい思い出になった。インドの宗教やインドの神々について教わり、インドの知識が広がった。宗教とヒンドゥー教で肉・魚類等は食べないベジタリアンだった。それでも食事の時は僕の家族と交流生とが盛大に盛り上がったので良かった。今回の交流では、知識が増してインドに興味が出てきた。短い時間であったが、いい経験になった。

インドの方から学んだ事

保護者 田井地 清

今回、二人のインド人学生の、ホームステイを受け入れました。説明会でのお話の通り、やはり食事が一番気を遣いました。肉、魚類はすべて駄目という事でしたが、私たち日本人は、多くの動物の命を食べている事を、改めて考えさせられました。生き物に感謝し、もっと命について、深く考えなければならぬと言います。

二日間、蔵王の露天風呂に行った時、彼らは、かけ湯で体を洗い始めました。驚いた事は、後ろに並んだ日本人数名が、しばらくの間、彼らに教える事なく、寒い中じつと待っていた事です。これを見て、日本はまだまだ国際化が進んでいないことを、実感しました。いろんなことを教えてくれたホームステイに感謝いたします。



平成26年度 PTA会長・各学年部長の方々からのメッセージ

高校生活で大切な事

PTA会長 齋藤 利幸



この度PTA会長を拝命いたしました。皆様には、PTA活動に深いご理解とご協力を頂いております事に、心より御礼申し上げます。

さて、新年度が始まって三ヶ月が経ちました。一年生の皆さんはようやく九里の生活に慣れたころではないでしょうか。また、三年生のほとんどは部活動から離れ、自分の思い描く進路に向けて、必死に努力している事と思います。二年生は、部活動では三年生が抜け、後輩を引っ張っていく立場となり、また、自分の進むべき未来を決める大切な時期でもあります。皆さんそれぞれ違った立場ではありますが、この人生の一ページとして大切な高校の三年間をどのように過ごすかは、皆さん自身が決める事です。勉強も部活動も将来にとってはとても大事なことです。しかし、それだけでなくクラスや学年そして、学園の行事は、自分の個性を出し自分を磨き、仲間との団結(集団行動)を強くする上では、社会に出てからとても重要になってきます。ぜひ全力で取り組んでください。

最後に、保護者の皆様には、各行事、事業に積極的に参加し、生徒達と有意義な時間を過ごしていただきたいと思っております。今後ともご協力よろしくお願ひ致します。

自分の未来は、自分で決める

三学年部長 船山 幸二



ホームステイにきていたインドの学生から、メールが届きました。「米

沢が楽しかった」こと、「帰国直後の就職試験に合格した」ことの内容でした。家族皆で喜びました。就職試験(合格困難の、日本企業)直前にもかかわらず、短期留学にチャレンジした彼だからこそその合格だったのではないのでしょうか。

ある進学高校の教師との会話で、「優秀な成績が、優秀な大学に入れるわけで、未来の選択幅が広がる」高校生活は、部活以上に学習に力を注ぐべき」と、力説しておりました。高校時代だからこそ体験し、学ばねばならないことが有る筈です。

確かに勉強もその一つに違いありませんが、有名大学合格の為に、其れ以外を犠牲にすべきとの考えには、同意できません。

「真に社会が求めている人間像」は、どちらなのか?

先のインドの青年を合格させてくれた日本企業に感謝。

「自分の未来を自分で決めた勇気あるインドの青年、万歳」

苦しいことに感謝

二学年部長 田井地 清



私は、自転車で東北一周、東京往復の旅に出ました。自転車の旅

は、辛い旅です。炎天下の峠越えで熱中症寸前。前に進まない向かい風。タイヤが水没したゲリラ豪雨。痛みで曲がらなくなった足。

なぜこんな辛い旅をするのかと言うと、車や新幹線の旅では味わえない感動があるからです。温かい人情、小鳥のさえずり、稲の香り、爽快な下り坂、水のありがたさなど、数え切れません。

多くの人々は、かっこいいものや、速いもの、高価なものなどを追い求めます。しかし、そういう価値観は、環境問題や交通事故、犯罪など、様々な悲しい副産物を産んできたことも事実です。

このように、新幹線より遅くても、車よりかっこ悪くても、自転車の旅のように、苦しいけれど一歩一歩確実に前進すれば、目には見えないたくさんの幸せをつかむことができるはずですよ。高校生よ、苦しいことに感謝しよう。

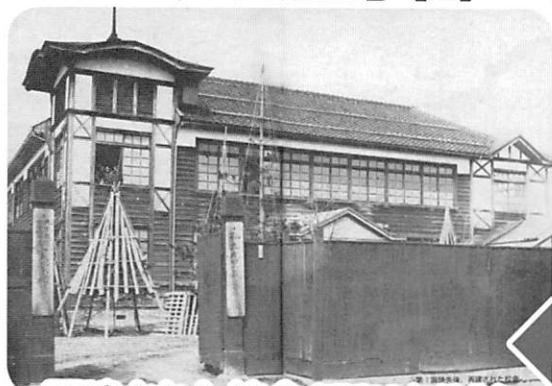
セント・ジョーンズベリーからの留学生が来校



入学式



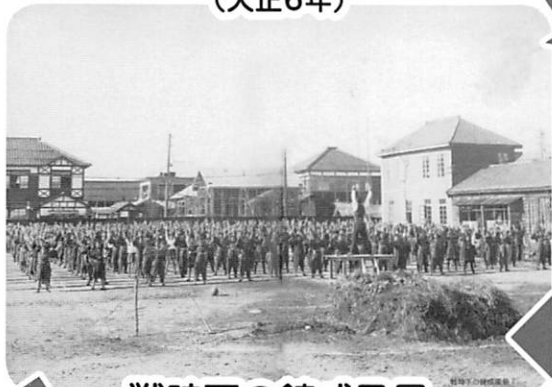
◆ 九里学園のうつりかわり ◆



再建された校舎〔昭和9年焼失〕
(大正6年)



創立当時の校舎〔大正6年焼失〕
(明治34年)



戦時下の錬成風景
(昭和20年頃)



再建し完成したばかりの校舎
(昭和10年) 米坂線開通



家庭科棟竣工なる
(昭和34年)



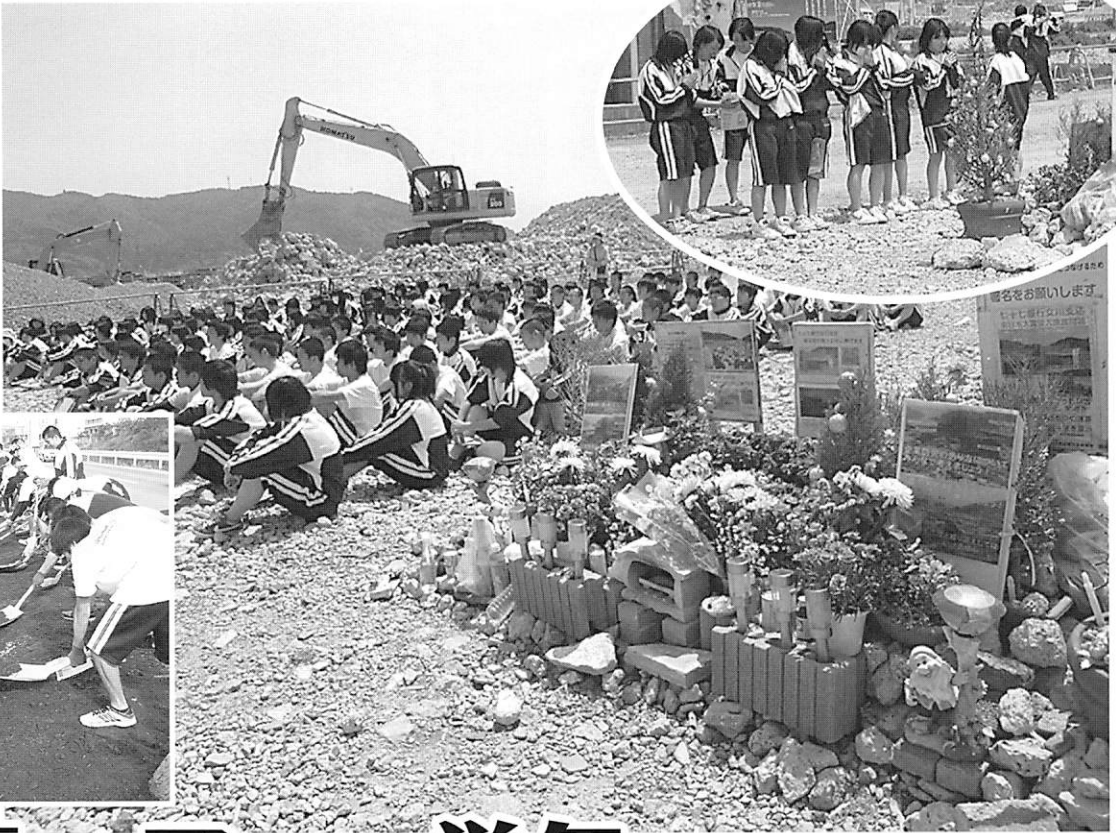
学園祭 創立70周年
(昭和46年)



創立100周年記念植樹
(平成13年)



現在の校舎の誕生〔男女共学スタート〕
(平成11年)



～ 一学年 ～

更地からの花壇

六組 中村真莉奈

私は被災地に行き、被災された方々からその当時のことについて色々なお話を聞いて、改めて津波の怖さを知りました。

何もない場所から花壇を作るのには思ったより大変でしたが、完成した花壇を見た時はとても達成感を得ることができました。

学年行事を終えて

一組 松本 昂大

被災地ボランティアに行つてみて、今までテレビ等では、復興している所が映っていましたが、実際は、ガレキが多く残り、土の中にはスプーン等もありました。

今、自分に出る事をよく考えて、津波などで亡くなってしまった方の分もよく考えて、これからの生活を過ごしていきたいと思いました。

学年行事を終えて

一組 遠藤 混斗

今回のボランティア活動を通して一番に思った事は、被災者の方々の津波、地震に対する想いが強いという事です。話を聞いてみると地震や津波のおそろしさが伝わってきました。

僕は、この大震災を忘れず、震災で亡くなられた方の事を想い、

しっかりと生きていきたいと思えます。

被災地ボランティアに行つて

六組 鈴木理々子

私は、被災地ボランティアに行きました。テレビで見ているのとは実際の現場を見るのでは、感じるものが大きく違いました。被災者の話を聞いて、テレビを見ただけでは知ることのできないことを聞きました。今回の体験は本当に貴重なものになりました。

被災地で感じた事

二組 大久保利矩

僕は被災地でいろいろなことを感じてきました。そして今僕達に出来ることは何なのか考えさせられた二日間でした。そして今僕達に出来るのは、少しでも被災地に貢献してみんなを笑顔にすることだと思えました。

石巻にいつて驚いた事

二組 平 康平

石巻にいつて、ボランティアとして土を耕していたら、トランプが出てきました。震災前に誰が使っていたと思われる物が出てきたので、すごく驚きました。

今回の学年行事でかきの養殖のお手伝いをさせていただきましたとてもやり甲斐を感じることのできる仕事でした。一日でも早く復興できると思います。

震災ボランティアを通して

三組 菊地 遥

今回の学年行事を通して、改めて命の大切さを学ぶことができました。

特に、大川小学校でのお話はすごく心に残っています。

これからは、今まで以上に命を大切にしていきたいと思いました。

震災ボランティアを通して

三組 渡部 夏美

今回の二日間を通して、震災の恐ろしさを改めて感じました。

ボランティアでは人手が少ない中でも毎日頑張っている地元の人たちに私たちが元気をもらうことができました。

これからは、さらに命を大切にしていきたいと思いました。

決意

四組 高橋 真央

私は大川小学校の跡地を見てとても驚きました。その他にもお話を聞いてとても心に残りました。だから私はその気持ちを忘れずに一日一日、一生懸命生きたいと思いました。



被災地の方から学んだこと

五組 菊地 彩加

被災地の方の手伝いをしてきて、明るく私達を迎えて下さったり、優しく指導して下さいたり、私達は、被災地の方の優しさや前向きに生きる力を被災地の方から学びました。

気持ちで負けないということ

五組 齋藤つづき

私は華夕美の女将さんから震災のお話をお聞きした中で、「強気で生活しないとできることもできなくなる」という言葉が印象に残りました。強気でしたからこそ前向きになることができ、ここまで復興することができたのだと思います。やはり気持ちから負けるのはいけない、強気で向き合い前に進んでいくことが大切なことだと感じました。

忘れてはいけない東日本大震災

四組 横山 舞莉

私は、被災地ボランティアに行っただけで残っているのは大川小学校です。先生の判断ミスで多くの子ども達が亡くなりました。私はこのことを絶対に忘れません。

～ 宮城・被災地ボラ

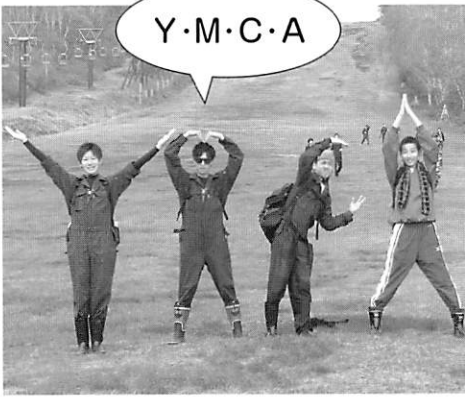


二学年 登山 男子 吾妻山

実りある登山

二年一組 茂木 意

晴天に恵まれた、二年男子ユニコースの吾妻山登山。予想以上にきつい斜面や足場の悪い岩場、雪道。厳しい道のりではあったが、学年の仲間同士、励まし合い、ケガ人なしで登り切る事ができた。連帯感や仲間意識が強まった、実りある行事になったと思う。今後も二学年男子の団結力を深めていきたい。



頂上にのぼったぞー！

吾妻山登山を終えて

二年二組 佐々木健人

今回、二年生男子は吾妻山登山に行ってきた。一日目は天候も変わり足場も悪くとても厳しい中でしたが、みんな無事に登頂できたのでよかったです。二日目は下り坂だけでしたが下り終えた時ようやく達成感が湧きました。登山を終えて自然の美しさや自然の怖さ、また仲間との団結力をあらためて感じる事ができた二日間でした。

二学年プロダレスコース 仙台キャンパスツアー

仙台キャンパスツアーに参加して

二年六組 情野 雪海

今回私達二年プロコースは仙台キャンパスツアーに行ってきました。自分が大学に持つていたイメージとは違う面を発見することが出来たり、各大学の魅力や教育方針の違いについて比較して学習することが出来ました。どのような学校を選択すれば自分の夢が叶えられるのか、進路選択の大切さを改めて感じる事ができた研修でした。



残雪



いってきます♡

二学年 登山 女子 猫魔ヶ岳

学年行事を終えて

二年三組 野老 菜々

今回の登山で私たちのクラスは仲間を思いやり、団結する力がより強くなったと思います。途中、遅れている人がいれば励ましてあげたり、前から伝わってきた伝言を大声で後ろに伝えたりできていたからです。今回の経験をこれからの学校生活に活かして、なんでも全員で前向きに頑張れるクラスにしていきます。



猫魔ヶ岳登山をふり返って

二年四組 熊島 春華

私たち、二学年女子は猫魔ヶ岳を登山しました。当日は天気にも恵まれ「早く帰りたい」という気持ちよりも、途中からは「みんなが無事に下山しよう」という気持ちが大きくなりました。

今回の登山を通して、学園・クラスがさらに団結し、みんなで何かをやり遂げる楽しさを改めて実感することができました。



猫魔ヶ岳に登ってみて

二年五組 渡辺 美鈴

今回の学年行事で登ってみて、私が特に思ったことは、クラスの皆とますます団結できたと思います。大きな岩を下りる時や、急な坂を下る時、小さな川を渡る時など、皆で助けあったり、励ましあい協力して猫魔ヶ岳を登ることができました。今回の行事では楽しい事もつらい事もあったけど、クラスが団結できてよかったです。



燃えろよ 燃えろ!!



三年生 庄内旅行

庄内旅行

三年一組 小池 達也

二日間、庄内研修に行ってきた、自分たちは大きく成長することができたと思っています。初日、二千段以上の石段を登り、そして座禅をくみました。キツイと言いながらも、みんなが笑顔で乗り切れたということが、成長にもつながりました。また、研修以外でも自分たちは笑顔がたえませんでした。夜の宿舎では全員が歌を歌い関の声をあげました。改めて三年生が一つになったと実感しました。

この二日間、学んだことを自分のものにして、進路など自分の目標を達成できるように、これからの学校生活を有意義に過ごしていきたいと思えます。



庄内旅行

三年二組 高橋 勇人

今回の庄内旅行では、自分達があまりできない体験などができ、楽しかったです。今回で最後の学年行事となつてしまいましたが、最後にクラスのみんなや、学年全体で楽しい思い出ができたので良かったです。

次は自分達の進路に向かって頑張りたいです。

自分達三年二組は初日羽黒山にのぼりました。自分達が思っていたよりも、階段が多かったですが、全員頂上に登ることができて良かったです。

舟下りでは最上川を下りました。舟の上は、涼しく、気持ち良かったです。庄内の山はきれいで、舟の上から見ると、もつときれいに見えました。

生きるということ

三年三組 藤巻 瑞季

私達、三年三組は「生きるということ」をテーマに見学地を決定しました。一つ目は、一夜干し体験です。イカをさばく事のなかった私達だったので最初はみんなさわることに抵抗がありました。徐々に慣れてきて内臓を取ったり、目を取ったり出来るようになりきれいにさばけました。

二つ目は、災害学習館へ行き、実際に地震・火災・消火体験をしました。地震の揺れ、火災の煙は学校で行う避難訓練とは違い、リアルで緊張感を持って体験していました。

一夜干し、災害体験を通して改めて自分達が生きていく大切さや食べ物と食べ物の大切さを気づけたような気がします。





待ちに待った庄内旅行。高校最後の学年行事ということで、とても楽しみに、準備からワクワクしていました。私達四組の目標は「庄内の歴史や文化にふれる・漬物制覇」でした。羽黒山での石段登山、最上川舟下りや海向寺での即身仏参拝、絵ろうそくづくり、様々な活動を通し達成できたと思います。もちろん、つけもの処では見事制覇し、おみやげもたくさん買ってきました。また、海岸散策やバス移動、一泊を通してクラスの絆がさらに深まり、一生の思い出をつくることのできたと思います。残り的高校生活もこの素晴らしいクラスの仲間と共にどんな困難も乗り越え、たくさんの思い出をつくって行きたいです。3・4 LOVE♡♡♡

三年四組 佐藤 真優

庄内旅行



二日間は、主にお寺巡りでした。人生初の座禅を体験したり、即身仏を見ました。足がしびれて立てなくなったり、即身仏を見て勉強できたりと、なかなか見れないものが見れたりしてとても良い経験になりました。大きな事故もなく全員が元気に帰って来れて良かったです。

庄内旅行

三年五組 鈴木美南海

一泊二日の庄内旅行で、普段出来ない体験や学習をすることが出来ました。

一日目は、みんなで羽黒山を登り、防災学習をした後に、磯方二釣りを体験し、海で思い出を作りました。予想以上の階段に、一度は絶望したものの、登り切った時は、達成感で溢れていました。また、火災・地震の時の対応法を体験するという貴重な体験をしました。本物の災害が起きたらここで学んだことを生かしたいです。



庄内旅行に行つて感じたこと

三年六組 丸山 真衣

私たちは、出羽三山神社での合格祈願をはじめ、山形県防災学習館で防災体験、善宝寺で座禅体験、由良海洋釣り堀、海向寺で即身仏参拝、慶應義塾大学先端生命科学研究所、藤沢周平記念館、庄内オープンセツトの八ヶ所の研修地を巡り、貴重な体験をしてきました。特に印象に残っているのは、座禅体験です。初めての体験でとても緊張しましたが、「何も考えない時間」を過ごすことで心がスッキリとした気分になりました。また、藤沢周平さんの「普通が一番」という言葉が心に残りました。体験を通して自分自身を見つめ、これからどうありたいかを考える良い機会になりました。これからの人生に生かしていきたいです。

ユースフルスクール紹介

手話講座

石山 吉雄

人間社会ではお互いにお年寄りや障害を持つ人や健康な人たちが、力を合わせていたわりあい、支え合えることが大切であり、住みよい社会づくりになります。手話を学ぶと共に、「みんなが幸せになってほしい」という心を育てて行きましょう。そして将来は手話通訳をめざす人が出て、耳の聞こえない人たちの社会生活に役立つようになってもらえれば大変嬉しいと思います。

宇宙散歩講座

高橋 元樹

宇宙を実際に自分の目で観たときの感動は心に響き、頭を刺激します。宇宙船地球号に生きる人間という大きな視野で互いに大切に思いやり、人生を幸せで楽しいものにしてもらいたい。それが、宇宙平和につながると思います。

食育講座

加藤弥栄子

子育ての最終目標といえは「自立」ではないでしょうか。どこに行っても何があっても「食べることは大丈夫！自分でできる！」そんな巣立ちを迎えられような家庭料理の基本を楽しくおいしくワクワクしながら体験しています。

憲法講座

九里廣志校長

これほどまでに、憲法を護るべき立場の人たち（政治家）に「日本の世界に誇る憲法」の本当の素晴らしさが理解されていないのかと嘆く昨今です。今年には社会人四人と生徒三人が受講し、色々な憲法問題について議論しています。

太鼓講座

佐藤 仁

米沢地方には、昔から受け継がれている盆太鼓があります。これは戦国時代、戦に勝った時の喜びを唄と踊りと太鼓で残したものだといわれています。代々受け継がれている太鼓の技術をクノリユースフルスクールでも伝えていきたいものです。

木目込人形講座

金藤 恒春

この講座がスタートしまして、早くも二十年が経ちました。その間、雛人形や武者人形、そして年末には翌年の干支制作を続けてきました。江戸時代から作り継がれています。伝統工芸、木目込人形の技を基礎から学んでみませんか？きつと手作りの感動と暖かさを味わっていただけるとと思います。

救急救命養成講座

高橋左和明

「人間を救うのは、人間だ！」赤十字救急法による応急手当の全ての分野（心肺蘇生法、AEDの使用法、骨折やきずの手当など）についての内容を講習（学科と実技）します。

編集後記

子ども達がどのような環境で学園生活を過ごしているのか、この紙面を通して保護者の方々に知って頂ければ幸いです。これから一年間、学園での出来事をお伝えするお手伝いができるよう、広報委員の一員として頑張りますので宜しくお願いします。（島貫 直子）

三日間で行い、検定合格者には救急員認定書が交付されます。



スクールカレンダー

- 8/29(金)~30(土) 九里祭
- 9/12(金) 創立記念式典
- 10/ 9(木) 体育祭
- 11/ 7(金)~ プロハワイ研修
- 11/12(水)~ 沖縄
- ユ二国内研修 (男子)
- 11/11(火)~東京、奈良・京都
- 11/13(木)~沖縄
- ユ二国内研修 (女子)
- 11/26(水)~28(金) 定期試験